



Q.「問いを立てる」ことに対して、ご自身の中であった新しい発見や気づきを教えてください。

- 自分の中で常識化していて、他の人も当然そう思っているだろうと感じていた持論が、共感を貰えなかった時は自分の中の常識が壊される感じがして面白かった。
- 立てた問いが合っているか間違っているかが重要なのではなく、出てきた結果から新たに考察することに意味があるということを経験的に気づくことができた。
- 問いを立てる際に、仮説を同時に立てることが重要だと感じた。分析によってなにを確認したいか、何を聞き出したいか、仮説を基に考えることで導き出されると思う。
- 今回の持論調査を通じてほかの人が持っている視点を沢山知ることができたため、自分が持っている視点と他の人の視点を絡めて新たな問いを立て続ける生活を送りたいと思う。
- 小さな疑問だったことが、調査結果をみてみると属性の影響を強く受けている場合も多くあったことから、身近な謎が自分の想像よりも大きな社会的枠組みと結びついている可能性があるのだということを発見できたと思います。



Q. 今回の一連の取り組みを通した感想やご意見を教えてください。

- 広い視野で世の中の事象を見てみることの面白さを感じる良い機会でした。
- 自分の仮説どおりの結果が出た持論でも、FQの項目を見ることで新たな発見や驚きがあり、面白かった。
- 今回の実習を通して、世の中の情報に幅広くアンテナを広げて、分析結果と関連を探る柔らかい頭の使い方を鍛えていきたいと思う。
- 問いとその結果について様々な情報を結びつけたり新たな問いにつなげたりする力は、今回だけでなくこの先行う社会学の実習でも必須になる重要なものであると思うので、今回の取り組みはとても有意義なものでした。

Q. 今回の一連のコラボを通じた満足度を教えてください。

- 満足できました。ワーク全体を通して、学生は現実社会のなかでの社会調査の意義を認識でき、熱心に取り組めたことがとても良かったと思います。自分とは異なる、さまざまな人たちから構成される社会での、みなさんの意見や考え方を捉える、調査という営みの重要性が理解できたと思います。

Q. 今回の一連の取り組みを通じた感想やご意見を教えてください。

- QOの皆さんがとても上手に学生のモチベーションを引きだされていることに感心し、教員としての学生へのアプローチにあり方を考える上で、とても参考になりました。「自明ではない関連を見つける重要性」「データでリアルを捉えたことをしっかりと認識する」などの、社会学でも重要な意味をもつ「名言」をいただくことで、学生は学びを深めたと思います。とても意義深い体験ができました。ありがとうございました。